

公立大学法人 大分県立看護科学大学
平成20事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成21年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

1 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

判断理由

○大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価については、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目について、全国で初めてNP（診療看護師）の大学院教育を開始したことやNPの制度化に向け、構造改革特区の提案（NPによる医療行為の規制緩和）を実施したことを高く評価した。

さらに、5年間のJICA「看護教育改善プロジェクト」をやり遂げ、ウズベキスタンの看護教育及び看護現場に大きな変革をもたらしたことや同国へ廃棄予定のベッドを寄贈したことなどで国際社会へ大きく貢献していることなどから、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。

○その他の大項目で特筆すべき事項は「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目において、外部研究資金獲得のため、全教員を対象に説明会を開催するなどの申請支援を行った結果、多くの教員が申請し、多額の外部資金を獲得したことがあった。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

<委員会からのコメント>

- ・大分県立看護科学大学は、地方独立行政法人化3年目においても、中期目標の達成に向けた年度計画を着実に実行しており、特に「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」では、3年連続のS評価となるなど、理事長のリーダーシップのもと教職員が一体となって順調に取組が進められている。
- ・特にNPに関しては、医療分野でも大きな話題となり、県内だけでなく日本全国が注目しており、大学のネームを全国に知らしめたという意味でも大きく貢献している。
- ・また、JICA「看護教育改善プロジェクト」については、5年間に総額5億円を投じた大きなプロジェクトに参加し、ウズベキスタンの看護教育及び看護現場

に大きな変革をもたらしたことや同国へ廃棄予定のベッドを寄贈したことなどで国際社会へ大きく貢献している。

- ・中期目標期間（H18～H23）は本年で半分が過ぎたが、今後も中期計画の達成と魅力ある大学づくりに向け、更なる取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

2 大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、77項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、全国で初めてNP（診療看護師）の大学院教育を開始するとともに、NPの制度化に向け、構造改革特区の提案（NPによる医療行為の規制緩和）を実施したことや5年間のJICA「看護教育改善プロジェクト」をやり遂げ、ウズベキスタンの看護教育及び看護現場に大きな変革をもたらしたことや同国へ廃棄予定のベッドを寄贈したことなどは、日本の看護界、看護教育の歴史に残るような取組であり、計画以上の成果を上げている。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

※特筆すべき項目

小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。

なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。

(I-1-(1)イ(ア)c-1)c-2)c-3)c-4)c-5)【2】

○NP（診療看護師）の大学院教育を開始

- ・3人のNP学生に対して老年NPの大学院教育を開始した。

○NP教育を推進するためのNP国際会議を開催

- ・ケースウエスタンリザーブ大学の教授を迎えてのNP国際会議やカリフォルニア大学の教授とソウル国立大学看護大学の教授を迎え、NP実習に向けた検討のための会議を行った。

○NPの社会的ニーズを評価するための実態調査の準備

- ・平成21年度に、NPの社会的ニーズを評価するための実態調査を実施するため、モデル地区（独居や高齢化が進んでいる佐伯市の無医地区）の保健師を対象に説明会を開催するとともに調査票を作成した。

○大学院修士課程でのNP養成教育を他大学に広げるための活動を開始

- ・近年中にNP教育を開始する他大学との連絡会議を開催し、NP養成のためのコアカリキュラムの標準化、制度化にむけての検討を行った。

(I-1-(1)イ(ア)f)【2】

○NPの制度化に向けた活動を実施

- ・全国で最初に本学大学院で養成されたNPが、社会的な認知を得て医療に貢献できるようにするため、構造改革特区の提案（NPによる医療行為の規制緩和）を実施した。

(I-3-(2)a)【2】

○NPプロジェクトを推進するための国際的なネットワークの連携強化

- ・米国や韓国の姉妹校以外にもベース大学やカリフォルニア大学サンフランシスコ校とも連携し、本学のNP教育を発展させる活動を実施するとともに、米国で活躍する日本人のNPとも連携し、日本におけるNPの養成や制度化に向けた検討を進めた。
- ・ウズベキスタンに廃棄予定のベッド100台を寄贈した。その際に要した輸送費は大分県民、関係団体及び企業の協力により賄った。

(I-3-(2)b-1)b-2)【2】

○ウズベキスタン看護教育改善プロジェクトへの参加

- ・教員4人をウズベキスタンに派遣し、それぞれの専門領域のカリキュラムの見直しや実習指導者養成のためのセミナーの準備などを行った。
- ・2004年から開始したJICA「看護教育改善プロジェクト」は最終年度を終了、モデル校の看護教育カリキュラムを全面的に改善するなど、ウズベキスタン看護教育及び看護現場に大きな変革をもたらした。

○ウズベキスタンからの長期・短期研修員の受入れ

- ・ウズベキスタンから約6週間の長期研修員6人と2週間の短期研修員7人を受け入れた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	50(4)			48(2)	2(2)
研究	14(1)			14(1)	
社会貢献	13(2)			11	2(2)
合計	77(7)			73(3)	4(4)
ウエイト考慮 後の合計	84			76	8

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、77項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- NPに関してもウズベキスタンへ廃棄予定のベッドを寄贈したことについても、その発想と持続力が素晴らしいと思う。
- 卒業した学生が県内で力を発揮出来る職場や待遇があると望ましい。
- 研究実績をホームページで公表するに当たっては、個々の教員の研究実績が分かるように掲載してもらいたい。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	-------------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

<p>○小項目評価の集計結果では、10目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。</p> <p>○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。</p> <p>○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。</p>

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	2			2	
人事の適正化	8			8	
合 計	10			10	

ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、10項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、11項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

※特筆すべき項目
 小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。
 （Ⅲ-2-(1)a）
 ○外部研究資金獲得のための積極的な取組
 ・科学研究費補助金採択率アップのために全教員を対象に説明会を開催するなどの申請支援を行った結果、科学研究費補助金については、新規に全教員60人中44人が申請し、継続を含め9人が採択され、2千万円を超える外部研究資金を獲得した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	3 (2)			3 (2)	
外部資金等の 獲得	3			2	1
資産の適正管 理・有効活用	5			5	
合 計	11 (2)			10 (2)	1
ウエイト考慮 後の合計	13			12	1

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、11項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

○今後も科学研究費補助金採択率アップのための努力をお願いしたい。

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			4	
情報公開	4			4	
合 計	8			8	

ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、12項目のすべてがⅢ（順調に実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	2			2	
安全管理	7			7	
モラル・人権 啓発推進	3			3	
合 計	12			12	

ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、12項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし